

医療と人文社会科学の架橋に向けて 16

The 16th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Sciences and Medicine: Illness is Narrative



江口重幸
(Shigeyuki Eguchi)

日本に早くから医療人類学・多文化間精神医学を紹介し、アーサー・クライマンらの翻訳者としても知られ、精神医療の文化性と既存の科学的世界観を揺さぶる語りの力を論じてこられた

江口重幸先生が、『病いは物語である』を刊行されました。これを記念し、統合失調症の分子生物学研究の世界的権威であり、近年は当事者研究にも関与されて

いる糸川昌成先生、『居るのはつらいよ：ケアとセラピーについての覚書』で、2019年大佛次郎論壇賞を受賞された気鋭の若手心

理学者の東畑開人先生、ガリ等フランス現代思想から出発し、ポストフクシ

マ社会と地球環境の問題にも取り組まれている村澤真保呂

先生をお迎えして、医療と

人文社会科学をつなぐ

アプローチの探究

を試みたいと思

います。

『病いは物語である』

『病いは物語である』プログラム

13:30-13:40 Introduction

13:40-14:40 江口重幸（一般財団法人精神医学研究所附属 東京武蔵野病院 名誉副院長 精神医学）Shigeyuki Eguchi (Vice President Emeritus, Tokyo Musashino Hospital, Psychiatry) 病いは物語であるのか？：文化精神医学・医療人類学・民俗学という磁場

14:40 break

14:50-15:50 糸川昌成（東京医学総合研究所副所長 精神医学）Masanari Itokawa (Deputy Director General, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Psychiatry)

心はどこまで脳ののだろうかー 分子生物学が語る心の起源ー

16:00-16:45 東畑開人（十文字女子学園大学准教授 臨床心理学）Kaito Tohwata (Associate Professor, Jumonji Gakuen University, Clinical Psychology)

今、心の臨床に文化は存在しているのか？

16:45-17:30 村澤真保呂（龍谷大学教授 社会学）Mahoro Murasawa (Professor, Ryukoku University, Sociology)

環境問題と精神疾患ー里山研究から

17:30-18:00 総合討論：司会 北中淳子（慶應義塾大学教授 医療人類学）



糸川昌成
(Masanari Itokawa)



東畑開人
(Kaito Tohwata)



村澤真保呂
(Mahoro Murasawa)

日時：2020年2月23日（日）13:30-18:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>（キャンパスマップ#10）

参加費無料／事前登録不要／転送自由

ご質問等は、北中淳子(junko.kitanaka@keio.jp)までご連絡ください。

本講演会は、科研費基盤研究 (C) 19K01205、論理と感性のグローバル研究センター、三田哲学会の助成を受けています。

